

エンジニアパーク

# Engineer Ring Park

私は20代後半に地元の北海道に戻ってきて、縁あって現在の会社にお世話になっています。それまでは1年～数年毎に転々としていたこともあり、社会人としての基礎も十分に身につけていませんでした。いい年をして、入社当初は電話を取るのも覚束ない、そして社用車を何度もぶつける有様。「鉄は熱いうちに打て」と言いますが、だいたい冷めてから打ち始めたこともあり、業務を覚えるのも四苦八苦。そんな中でも、職場の上司、同僚をはじめ、周りの方々が温かく見守って下さったからこそ、今も継続して勤務できており、大変感謝しております。

さて、仕事柄、地域の農業委員会に出入りさせて頂くことがあります。一般の土地と違い、農地については権利移動(売買、貸借等)や転用(農地を農地以外のものにする)が農地法によって規制され、農業委員会の許可や届出が必要となっています。そのため、農業委員会では、農地の所在や所有者、耕作者等の各種情報を「農地台帳」という台帳で管理することになっています。この分野でもDX化の波が押し寄せており、一昔前は紙台帳での管理でしたが、ExcelやAccessになり、そして市町村独自システムが導入され、GISと連携するようになり、更には全国統一のクラウドシステムの稼働、水田台帳等の他の農地情報との一元管理等、めまぐるしく変貌を遂げてきています。

「不易流行」という言葉が表しているように、変わらない本質的な部分もありますが、変わる部分、変えるべき部分については、日々継続研鑽していかないと、キャッチアップし対応していけないことを痛感しています。時代の変化がもう少しゆっくりであれば、という思いも心の片隅にありつつ。

## 石若 勝俊 (いしわか かつとし)

● 農業部門(農村地域計画)

勤務先

株式会社シン技術コンサル



→次号は、紙本和尚さん(建設/応用理学/総合技術監理部門)

私は網走市に生まれ、高校卒業まで住んでいました。小学生の頃には、網走刑務所周辺も遊び場のひとつでした。その後、札幌の大学へ進学し、土木科必見の映画と巷で噂になった「海峡」を友人数名と見に行き、青函トンネルの貫通シーンでは達成感というものを感じ、同時にインフラ整備に対する使命感というようなものを感じました。

就職は地元に近い所と思い、求職票を見ると釧路と帯広の会社がありましたので、釧路の会社を受けることとしました。こうして私は釧路に住むこととなったわけですが、釧路の夏は寒かった。最初の年は半袖の服を着ることも無く、夏でもジャンパーを着ていました。お盆の終わりから9月上旬まで、この釧路の寒い夏(?)を逆手にとった、ビアガーデンならぬ「ヒア(冷あ)ガーデン」が開催されます。この時期に釧路へ来られた方は、ぜひ飲みに行ってください。40年も住んでいると体が涼しい気候に慣れたのか、地球温暖化のせいなのか、近年は暑い日もあります。そんな時は、犬のためにつけたエアコンで涼ませてもらっています。

さて、私が技術士を志したのは30代後半で、第一次試験の合格が第二次試験の受験条件になる少し前の頃でした。そう簡単には合格できる試験ではないので、とりあえず一次試験に合格しておこうと思い、その合格に安心したせいなのか第二次試験に合格したのはそれから15年後のことでした。

現在は、総合技術監理部門の取得に取り組んでいますが、なかなか合格する事ができずライフワークになりつつあります。また、釧路は日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震による津波被害が想定されていることから、防災委員会の交通部会に所属し、地域防災力向上に取り組んでいきたいと思っています。

## 加藤 輝美 (かとう てるみ)

● 建設部門(道路)

勤務先

東邦コンサルタント株式会社



→次号は、水野敏裕さん(建設部門)